

§ 61 最外角光束によるレンズ口径の決定

通常は最外角光束はそれ以外の光束の外側にあるが、フィルター径などの都合で例えば第一面で下光線を抑えた場合中間画角の光束は最外角光束より外に出る。このような場合途中の面の口径を外部から与え余分な光束を抑えたいがそのためには最外角光束の光線高を知る必要があるが面倒であり、最適化の途中で高さが変わるときは処置できない。このような時に ZOOM_CNT-Tab5 にある NFIX と同じようにレンズの口径を最外角光束によって決定する option を追加した。

LENS_CNT-Tab10 の下半分は

<input type="text" value="1.0"/>	HSGPTZ : Z-direction increment to get good ray which is used when KPSCMD=02	
<input type="text" value="0.004"/>	HGOSA : tolerable error to decide pupil co-ordinate of each ray bundle	<input type="text" value="LENS_CNT-Tab10"/>
<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
NFIFFIX:surface number of fixed iris whose diameter is decided by lower ray of maximum image point		

と成っているので表題に対応した面番号をここに入れば目的を達する。この場合球面最大光線高さよりも最外角光線高の絶対値のほうが小さい場合は球面光線の値を用いる。通常は最外角光束の下光線が口径の決定に用いられるが、絞りより後方で上光線によって口径が決められる場合でも対応している。